

現地を訪問して思うこと(D 福島県会津コース)

2013年12月18日

田島 蓉子

訪れた会津若松は内陸にあるのでテレビで報道されているような津波の被害を受けているわけではなく、建物の倒壊跡が時々見られるほどで到着した時は復興してきているなどという印象を受けた。

しかし実際農業を営む人たちの話を聞くと、目には見えないが復興には長い時間がかかることがわかった。それが風評被害だった。原発事故により原子力発電所から離れている会津地方でも農作物は同じ「福島県産」として扱われ、放射線のイメージが強く買ってもらえないとの事だった。野菜の出荷量は震災前と比べてまだ30%ほどしか戻っておらず、給食で使用していた県内の学校からも断られているという。

畑の前で色々と話を聞きながらそこで採れた野菜(無農薬なので葉っぱを直接ちぎって頂いた)やお餅を頂いたが、本当に新鮮で甘くてみずみずしく、お餅もつきたてもちもちで何度も食べたくなった。復興に向けてインターネット販売をおこない全国へ野菜を届けていらっしゃる積極的に行動されている姿を見て、到着した時の印象とは全く異なり、目に見えないものと戦う事の大変さを少しでもわかることが出来た。皆さんつらい現状を丁寧にお話して下さり、そして私たちに食べきれないほどの美味しい御馳走をふるまって頂いてとても良い経験をさせてもらった。

この経験は家族に早速話をしたし友人にも話していきたいと思う。

復興応援ツアーとして1泊2日の旅だったが、農家の皆さん、バスガイドさん、旅館の方、そして福島県の校友会の皆さんからの温かいおもてなしを受けて他府県も含めて東北へまた旅行したいと思った。関西や九州からの旅行は遠く感じる人も多いと思うが(私も遠いと思って今まで訪れた事がなかった)、今は飛行機で安く東北へ行く事が出来るので美味しいお米、地酒、温泉に大自然と色々と楽しんでほしいと思う。

来年の3月で3年がたち、遠くにいる私たちの記憶からは少しずつ薄れていっているかもしれない。今後は支援をするという考えより東北へ旅行して、観光、美味しい食べ物を食べてお土産を買ったりと、現地をたくさんの方が訪れて盛り上げる事、お金を入れる事で旅行者、被災者どちらも笑顔になり復興に少しでもつながればと願う。